



薬師寺 公一 医師
(吉備医師会から)

正確に病気を診断することは、容易ではありません。ましてや時間外ともなると、スタッフの数やできる検査に限られるので、より診断はむずかしくなります。

時間外外来で、通常の外来と同じ診療レベルが保たれる医療機関は何処にもないといっても過言ではないでしょう。例えば、特定の診療科目に特化した病院

今月のテーマ
時間外診療

今治療しないといけない病気を見逃さない

は、その科目に関しては24時間対応ですが、それ以外の病気ではどうでしょうか。

そのようななかで、時間外診療医療機関に求められている役割は、今治療しないと悪い結果を引き起こす病気を見逃さないこと。これにつきると思います。換言すれば、明日治療しても良い病気は、明日に回しても良いということになります。

先日の岡山県南西部救急対策会議での発表でも、看護師さんが電話で応対することで、受診に至らなくてもすむ患者さんが半数いること。最近の不景気の

ためか、時間いっぱい(親が)働いた後で受診しようとする患者さんがいることなどを問題視する発表がありました。

時間外に通常の時間と同じレベルの診療を期待すると、診療にかかるコストは莫大なものとなります。その費用は税金となって跳ね返ってきます。医療が社会資源といわれるゆえんです。

総社市が行っている診療時間外の診察の具体的な受診の仕方については、字数の関係でここには記載できません。詳しくは、市のホームページをご覧ください。

安全・安心
総社署からのすすめ

春は、子どもの新入学の季節です。真新しいランドセルを背負い、慣れない通学路を歩くと、子どもたちが交通事故の被害に遭う危険性の高い時期でもあります。

次の点に気をつけて、保護者や学校関係者をはじめ、地域全体で、新入学児童を交通事故から守りましょう。

■保護者など周囲の人へ

家庭では、交通安全について

新入学児童の交通事故防止

話し合う機会をもち、子どもの交通安全意識を高めるようにしましょう。

日常生活では、まず身近な大人たちが交通ルールを守ることが大切です。子どもたちに交通安全の手本をみせてあげましょう。

また、新入学の前には、子どもといっしょに通学路を歩いてください。子どもと同じ目線になって交通安全点検を行い、危険箇所を確かめましょう。そして、何が危険なのか、どのようにすれば安全なのかを子どもといっしょに考えて、分かりやすく教えてあげてください。

■ドライバー・自転車利用者の人へ

子どもは、大人より目線が低く、視野も狭いです。遊びなど一つのことに集中すると、ほかのことが目に入らないなどの特性があります。

また、駐車車両などの、ちょっとした障がい物でも子どもが隠れてしまうことがあります。

住宅街や学校、公園などの周辺では、もしかしたら子どもが急に飛び出してくるのではないかと常に予想して、スピードを控え、思いやりのある運転を心掛けましょう。ちょっとした意識で、事故は未然に防げます。

監修・問い合わせ 総社警察署 (☎94-0110)

参加者募集

5/29日
13:00~16:30
市民会館

定員 1000人

鬼ノ城シンポジウム

鬼城山整備完成記念

天空にそびえる城「鬼ノ城」。平成13年に始めた鬼ノ城の整備も今年度で10年目。城門や土塁の復元をはじめとした西門周辺の整備が終り、青い空に壮大な建物と楯の赤が映えています。

市では、整備の完成を記念し、「甦った天空の城 鬼ノ城」をテーマにしたシンポジウムを開催します。

鬼ノ城の整備委員で考古学・古代史・古建築学など各分野の第一人者が、基調講演やパネルディスカッションに参加。全国初で城門の復元を実施し、版築土塁、高石垣、敷石、板塀などいづれをとっても、どのように造り、どのように機能したかなど、謎は尽きません。今回はその謎の解明に迫ります。

■鬼ノ城概要発表

「鬼ノ城発見! あれから40年」
総社市埋蔵文化財学習の館館長 村上 幸雄

■基調講演

「鬼ノ城 調査と整備を振り返って」
元興寺文化財研究所長 坪井 清足

■パネルディスカッション

「甦った天空の城 鬼ノ城」
コーディネーター
狩野 久 (元岡山大学教授)
パネラー
高橋 護 (元ノートルダム清心女子大学教授)
河本 清 (元くらしき作陽大学教授)
濱島 正士 (国立歴史民俗博物館名誉教授)
稲田 孝司 (岡山大学名誉教授)

整理券の応募方法

5月6日(金)までに、住所・氏名・電話番号を書き、はがきかファクシミリ、eメールで、申し込む(電話での申し込みは不可)。複数人での申し込みは、それぞれの住所氏名を記入。申込者多数の場合は抽選。5月20日(金)までに、結果通知と整理券の送付をします

応募先・問い合わせ

総社市教育委員会文化課内「鬼ノ城シンポジウム」係。〒719-1192 中央一丁目1-1、☎92-8363、☎92-8397、eメール ed-bunka@city.soja.okayama.jp

このシンポジウムは全国モーターボート競走旅行者協議会からの拠出金を受けて実施するものです。